

第 11 回 理化学研究所 運営・改革モニタリング委員会 議事概要

日 時： 平成 28 年 3 月 30 日（水）15 時 30 分～17 時 00 分

場 所： 理化学研究所 東京連絡事務所

出席者： 【委員】野間口有委員長、家泰弘委員、池田雅夫委員、手塚一男委員、
室伏きみ子委員、山本富夫委員

【理研】松本紘理事長、有信睦弘理事、松本洋一郎理事、加藤重治理事、
小安重夫理事、羽入佐和子理事、
小川智也研究顧問、岡本仁脳科学総合研究センター副センター長（研究
倫理教育責任者） 他

議事概要：

(1)「研究不正再発防止をはじめとする高い規範の再生のためのアクションプラン」及び「運営・改革モニタリング委員会提言」への取組状況について

有信理事及び小川・岡本 両研究倫理教育責任者からの説明の後、委員より以下のような意見が出された。

- 理研を挙げてシステマチックに取り組んでいることが分かった。
- 研究室主宰者が気に入るデータを出そうと研究スタッフが考えることが問題。単純な間違いよりも研究不正の原因になるものなので、そこを注意する取り組みは良い。
- 論文類似度検索ツールでチェックした際に、自分の過去論文以外との文章の重複は 1% もないかもしれないが、安心せず、きちんと見ておかなければならない。
- 研究室主宰者も、こういった取り組みに熱心な人もいれば、そうでない人もいるだろうから、センター内及びセンターを跨いで（理研全体で）グッドプラクティスの共有ができると思う。
- ヒヤリとしたことがあったという説明があったが、研究記録管理の方法は多様であり、そういった情報は逆にリスクが洗い出せているということ。内部統制で反映されていれば良い。
- 確認テストの実施は非常に良いこと。毎年リマインドされる。
- メンターは一度決まると変わらないのか。異分野のメンターは新たな出会いとなり、コンプライアンスの枠を超えて有用。
- 日本学術振興会が e-learning コースの提供を予定しているので活用してみてもどうか。
- 大学で学生に対する研究倫理教育等に関する面談で使われている良い材料があるので、それを参考に理研研究者に適した内容のものを作り上げて活用することを検討してみてもいかがか。
- 本委員会の発足当初、各委員の意見として多くあったのは、研究倫理教育責任者がうまく回るのか、研究時間がなくなってしまうかといったことだった。本日の 2 名の説明を聞いて、きちんと研究を行いながら自然とコンプライアンスも守るところまで進ん

でいると思った。

- 研究倫理教育責任者の活用で研究倫理を高めるというアプローチだが、研究倫理教育責任者は時間が取られてしまって、今は集中的にやっているものの今後も続けるのは厳しいということはないか。
- 心の病で長期に休職する人もいるので、メンタルヘルスケアの充実は、きわめて重要。
- 特に若い研究者の休職率が高いという話を聞いている。理研はその点に素早く対応したので、良かった。
- 研究倫理教育責任者の責務については、研究スタイルが確立した研究者を採用するというのが基本であり、そこから逸脱した場合は早めにチェックすることが重要である。
- 非常勤職員に対する研究倫理教育はアクションプランで明確でなかったが、きちんと対応していることが分かった。

(2) 理研の取組についての講評

委員長より確認結果の文書案が提示され、委員の全会一致で承認されたことを受けて、委員長から松本理事長へ確認結果が手渡された。さらに、以下のような意見が出された。

- いくつかのセンターのグッドプラクティスを理研全体に広げることも大切だが、理研には研究倫理の意味でグッドマインドを持っている人が多くいるので、そういった気持ちを広げることが研究不正の防止に効果があると考える。
- 本委員会発足から一年半が経ち、全所を挙げて実施していることが分かった。模範となる体制ができている。今後も続けることが大事。
- 仕組みは着々と進んでいることが分かった。大事なのは、研究倫理が全体に醸成されるということ。各人が研究倫理について考えを深めて発揮していくことが大事。第一歩としてはうまくいっているように思う。
- 最先端の研究を行っている全ての人誇りを持てるような空気の醸成が大事。誇りがあれば間違ったことはしないはず。
- 内部統制の仕組みが整っている。綻びの例として、リスクの認識が新鮮なうちは良いが、続けていくうちに形骸化してしまい、抽象化される。研究倫理という価値観をもってやってほしい。
- 当委員会に諮る段階は終わった。今後は、理研自身が主体的・日常的・効率的に PDCA サイクルを回して改善してほしい。

最後に、松本理事長より、一年半の長きに渡ってモニタリングいただいたことに深く感謝するとともに、研究所役職員一同 3,000 人超が今後も一枚岩となって取り組んでいくこと、喉元過ぎれば熱さを忘れてしまわないよう、しっかりやっていきたい旨、挨拶があった。

以上